



知っておきたいペットの健康常識<夏編>

ワンちゃんネコちゃんと 豊かな HAPPY ライフ♪

☀️夏に向けて気をつけたい病気

熱中症

→ワンちゃんに多いですが、特に暑い日はネコちゃんも要注意です。人間のように汗をかくことができないワンちゃんとネコちゃんは、長時間の高温多湿にさらされると体温を下げるができなくなってしまう。

体温が 40℃を越えるような状態が続くと、命に危険が及び場合があります。

<予防対策>

ワンちゃん：お散歩は早朝、夜など涼しい時間帯にしましょう。水を携帯しても良いでしょうし、アイスノンも必要なことがあるかもしれませんね。

小型犬はアスファルトの照り返しにも注意しましょう。

室内ではとても暑い日にはクーラーを使用したり、扇風機で空気の流れを作ったりするのも良い方法です。

いつでも新鮮なお水が飲めるようにして下さい。

ネコちゃん：ワンちゃんより暑さには強いですが、暑い日には窓を開けたり（可能であれば）、扇風機で空気の流れを作る、お風呂場のような比較的ひんやりした場所に移動できるようにする、などの工夫をしてあげましょう。

猛暑日には冷房の使用を検討ください（後述）。

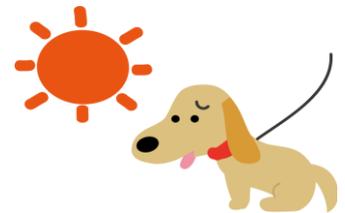
<熱中症の応急処置>

意識がある場合は涼しいところへ連れて行き、お水を飲ませます。

体を水で濡らしたり、アイスノンをあてるなどして体温を下げる工夫を。

その後は動物病院を受診しましょう。

意識がない場合は無理にお水を飲ませず、体を同様に冷やしながら急いで動物病院へ！



外耳炎

→垂れ耳、耳の中の毛が多いワンちゃんに多いです。

外耳炎が起こる原因は色々ありますが、気温が上がるにつれ、発症する割合が増えるように思われます。また、以前に外耳炎を患っていた子は再発・悪化する傾向があります。

耳を掻く、頭を振る、などの症状がみられる場合は早めに病院を受診して下さい。

皮膚炎

→外耳炎同様、ワンちゃんに多いトラブルです。特にアレルギー性、アトピー性皮膚炎の子は、痒みや皮膚の状態が悪化する傾向があります。

ブラッシングをこまめに行う、シャンプーの回数を増やすなどのケアをしつつ、皮膚の状態をよく観察し、異常があった場合は早めに動物病院を受診して適切な治療を受けましょう。

ノミ・ダニ・フィラリア症

→気温が15度を上回ると、ノミ・マダニなどの吸血昆虫の活動が活発化します。ノミやマダニは吸血することで皮膚炎を起こすだけでなく、他の様々な病気を媒介します。ノミ・ダニの予防はしっかり行いましょう。

※ネコちゃんも油断はできません

お外に出る子はもちろんですが、室内飼いの子も油断はできません。同居にワンちゃんがいるなら、お散歩でノミやダニが室内に入ってしまう可能性があります。また、人が靴の裏にノミやダニの卵をつけて家に入れてしまうことも心配されます。玄関先でゴロゴロスリスリ飼主さんをお出迎えしてくれる子は予防がおすすめです。

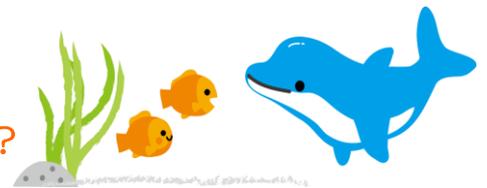
猫風邪

→ネコちゃんは比較的暑さに強く、寒がりの子が多いです。夏に人間がクーラーを使うようになると、猫風邪（ヘルペスウイルス感染症など）にかかったことのある猫ちゃんは風邪をぶり返してしまうことがあります。猫ちゃんの生活スペースは室温を高め設定し除湿だけにする、扇風機で緩やかな風の流れを作る、などの配慮をしてあげましょう。

！飼い主様の間違った認識（常識）

○水道水よりミネラルウォーターの方が健康に良さそう！？

→含有ミネラルが尿石症の原料になってしまいます。



○太ったワンちゃんネコちゃんは可愛い！？

→動物病院ではボディコンディションスコアを参考に肥満度を判定しています。

通常、適正体重の15%を超えると減量の必要があるとされています。

太ることによって、心臓、呼吸器、関節、骨、糖尿病などいろいろな病気の引き金になるおそれがあります。月に一度、体重測定だけのご来院も大歓迎ですし、獣医師が処方する減量用のFOODもありますので、お気軽に動物病院にお越しください。

○果物がおいしい季節。ブドウを欲しがるのであげていい！？

→ブドウを大量に食べた犬が急性腎不全（ブドウ中毒）で死亡する報告があります。

Ex.体重2.5kg のマルチーズが種なし小ブドウ約70グラムを食べた5時間後から嘔吐と乏尿集中治療を行うもブドウ摂取4日後に死亡【日獣会誌 63, 875～877 (2010)】

→ぶどうの他にも食べさせてはいけないものがたくさんあります。

例) 玉ねぎ、ニラ、ネギ、ニンニク、アボガド、チョコレート等

○いつも同じFOODはかわいそう！？

→FOODを頻繁に変えてしまうより、栄養バランスのとれたFOODを一貫して与えた方が、食事アレルギーの発生や下痢・嘔吐など消化器症状の出現を防いでくれます。

味を感じる「味蕾（舌のイボイボ）」の数が、ヒトは約10,000個あるのですが犬は約2,000個、猫は約500個しかありません。動物たちは味のスキ・キライよりも、“ニオイ”や“食感（舌触りや温度）”に好みがありそうです。

○人間用の歯磨き粉（キシリトール入り）を使ってもいいかしら！？

→甘味料として使われているキシリトールですが、犬ではキシリトールを摂取するとインスリンが激しく分泌されることがわかっています（猫ではわかりません）。インスリンが大量に分泌されることにより低血糖を引き起こす恐れがありますのでワンちゃんの歯磨きには専用の歯磨き粉をご使用ください。

○耳が痒そうだから綿棒でキレイに!?

→ヒトの耳道は水平なのですが、犬の耳には垂直耳道と水平耳道があります。耳道には「自浄作用」があり本来であればキレイに保てているはずなので、汚れがあるのは「病院での処置が必要である」というサインです。綿棒を使用すると耳を傷つける可能性や、せっかく外に出てきた汚れを押しこんで、かえって状況を悪化させてしまう可能性がありますので、綿棒の使用はやめましょう。

○人間用のシャンプーを使用してもいい!?

→皮膚の構造が違うので、犬や猫にヒトのシャンプーを使用することはおすすめできません。また、動物用のシャンプーでも成分によっては犬には使えるが猫には使用できない、というものもあります。

	犬の皮膚	ヒトの皮膚
皮膚の厚さ	被毛部 0.05~0.1mm	0.2mm
汗腺	主にアポクリン腺	主にエクリン腺
毛穴の構造	一つの毛穴から 7~15 本 脂腺や汗腺が付属し複雑な構造	一つの毛穴から 1~3 本 汗腺は独立している
皮膚の pH	平均 7.5	平均 5.5
ターンオーバー	3 週間	4~6 週間



★食事や生活の健康管理

○食事は専用フードをメインに

→健康管理に食事のバランスはとても重要です。その子の年齢、活動量、何か病気を持っているならそれにあった食事と適切な量を提供しましょう。つついおやつをあげてしまうことがあるかもしれませんが、なるべくおやつは控えるようにしましょう。特に人の食事や味のついたものは食べ物によっては動物に害をもたらすものもあります。あげないようにしましょう。高齢の子や病气持ちの子は、暑さで食欲が低下することがあります。そんな時はウェットフードをトッピングしたり、ドライフードの種類を変えてみるなどの工夫をしてあげましょう。決まったフードを食べる必要がある場合は、まずは獣医師や看護師にご相談下さい。一緒により良い方法を考えましょう。

○ご飯を食べたらデンタルケアを忘れずに

→シニアのワンちゃん・ねこちゃんのほとんどが歯周病を患っているといわれています。

重度になれば全身麻酔での抜歯手術や歯石除去が必要になることもあります。

そして大抵そういった処置が必要になるのは 10 歳以上の高齢期になってからが多いです。

歯周病は単に口の中だけの問題ではありません。

心臓病、腎臓病などの全身的な病气との関連も報告されています。

毎日数分のデンタルケアが、大切な家族の健康につながるのです。



○定期的にしっかり運動

→人間でも耳に痛い話ですが、適度な運動は動物にもとても大切です。運動不足は肥満につながるだけでなく、筋力の低下、退屈による問題行動（無駄吠え、室内でのいたずらなど）も引き起こします。ワンちゃんでは犬種によって体格によらず予想以上に運動量を要求する子達もいます（ジャックラッセルテリア、ビーグル、W・コーギー、）。ネコちゃんも一日10～15分くらいはおもちゃで遊んであげるといいでしょう。

…とはいえ、夏の暑い時期は激しい運動は熱中症をおこす危険があります。

涼しい時間帯を選び、長時間の激しい運動はさげましょう。

○家の中は実は危険がいっぱい

→異物誤食の発生現場は家の中がほとんどです！まさかこんなものまで……！という事例は日常茶飯事。ワンちゃんネコちゃんたちの生活圏は普段から整理整頓を心掛けてください。ゴミ箱は入ることの出来ない部屋におく、薬剤は棚の中にしまう、人のご飯はだしっぱなしにしないなど、常に気を配りましょう。また、フローリングの床は関節炎がある、高齢で足腰が弱くなっている子には向きません。カーペットや、滑らないマットを設置してあげましょう。

※気づいて欲しい病気のサイン

いろいろありますが・・・以下の症状が続くようなら全身性の病気が考えられます。

あれ？と思ったら動物病院で診察を。

- 吐いている→消化器の病気、異物の誤食
- 元気が無い→どこかが痛い、不快感、倦怠感がある
- 痩せてきた→全身的な病気による体の消耗の可能性
- 異常に水を飲む・尿量が多い→腎臓や子宮卵巣の病気、内分泌系の病気の可能性
- おしっこが赤い・頻尿である→泌尿器系の病気
- おしっこが一日以上でない→**オス猫**ちゃんなら緊急事態！尿道がつまってだせないのかも！
- 下痢をしている→消化器系の病気
- 毛がぬけてきた→皮膚病、内分泌系の病気
- 咳をする→呼吸器・循環器の病気
- 体にしこりがある→皮脂腺のつまり、腫瘍など
- 眼をショボショボさせる、目やにが多くなる→アレルギーや眼の病気
- 口が臭い・出血がある（頬が腫れる）→歯周病のサイン



その他にも元気、食欲はちゃんとあるか、オシッコや便の状態は大丈夫か、歩き方に問題はないかなどなど……。

飼主さんは言葉を話せない家族に代わって症状を説明できる唯一の存在です。

普段の様子に変化はないか、観察することを毎日の習慣にしてあげて下さい。

